

2016年全国大会・西部部会・東部部会プログラム

第19回全国大会

第1日目

日 時：2016年11月12日（土）

会 場：神戸大学六甲台キャンパス

開会の挨拶（9：55） 会長 齋藤 彰

個別研究報告会 午前の部（10：00～12：15）

【セッションA 座長：大貫雅晴（ジービック大貫研究所代表）】

- A-1 「Investor-state dispute settlement involving Japanese investors」
報告者：Daniel Allen（Associate, Freshfields Bruckhaus Deringer）
コメンテータ：James Claxton（神戸大学教授）
- A-2 「米国における建設ADR」
報告者：小倉 隆（大成建設次長）
コメンテータ：澤井 啓（大阪経済大学客員教授）

【セッションB 座長：田中誠和（名古屋商科大学教授）】

- B-1 「中国における不動産投資信託（REIT）の実務進展及び法的問題
——日本法やアメリカ法との比較」
報告者：段 磊（名古屋商科大学専任講師）
コメンテータ：梶田幸雄（麗澤大学教授）
- B-2 「新たな犯罪収益移転防止法制に対する提言
——前提犯罪の拡大に伴う法制度の再編」
報告者：花木正孝（近畿大学准教授）
コメンテータ：渡邊隆彦（専修大学准教授）

【セッションC 座長：浜辺陽一郎（青山学院大学教授・弁護士）】

- C-1 「外国判決の承認・執行に関する中国の現状と改革の動向」
報告者：馮 茜（大阪大学博士後期課程）
コメンテータ：高杉 直（同志社大学教授）
- C-2 「米国における反トラスト法をめぐる抵触法上の問題」
報告者：西岡和晃（同志社大学博士後期課程）

コメンテータ：多田 望（西南学院大学教授）

個別研究報告会 午後の部（13：30～15：45）

【セッションA 座長：藤川信夫（日本大学教授）】

A-3 「非流通運送書類の選択要因モデルと多文化の影響について」

報告者：長沼 健（同志社大学准教授）

コメンテータ：田口尚志（早稲田大学教授）

A-4 「拡大するessDOCSの電子貿易取引と電子海上運送状活用の提言」

報告者：檜垣拓也（MUビジネスサービス部長代理）

コメンテータ：佐藤武男（グローブシップ常務取締役）

【セッションB 座長：田中恒好（立命館大学教授）】

B-3 「国際商取引における人的資源管理の多様性」

報告者：河野公洋（岐阜聖徳学園大学教授）

コメンテータ：齋藤憲道（同志社大学スーパーバイザー）

B-4 「北極海航路の現状」

報告者：合田浩之（日本郵船調査役）

コメンテータ：大島英雄（大島経営研究所所長）

【セッションC 座長：阿部博友（一橋大学教授）】

C-3 「仲裁合意の人的範囲の拡張に関する基準についての考察
——フランスの裁判例からの示唆」

報告者：越智幹仁（神戸大学博士後期課程）

コメンテータ：中村達也（国土館大学教授）

C-4 「債権法改正中間試案における外貨債権の取扱い」

報告者：平野英則（西武信用金庫副部長）

コメンテータ：田澤元章（明治学院大学教授）

総会（16：00～17：25）

第2日目

日 時：2016年11月13日（日）

会 場：神戸大学六甲台キャンパス

シンポジウム 午前の部（10：00～12：30）

【アジアにおける国際ビジネスと法 座長：高杉 直（同志社大学教授）】

（共催：同志社大学国際ビジネス法務研究センター；神戸大学大学院法学研究科）

[趣旨] 企業の国際ビジネスにとって、世界経済の成長センターであるアジア地域を無視することはできない。実際にも、多数の日本企業がアジア地域に進出している。しかし、アジアは多様であり、ビジネス慣行も地域ごとに異なっており、各地域の実情を知らなければ痛い目に遭うことになる。

本シンポジウムでは、アジア地域でビジネスを行っている日本企業に対して示唆を提供することを目的として、アジアで国際ビジネスを行う際の「勘所」について、ビジネス実務と法律実務という複眼的な視点から検討する。

1. 個別報告 (10:00 ~ 12:00)

1) 中国における商業賄賂を中心に

報告者：村上幸隆 (関西大学教授・弁護士)

2) 中国におけるビジネス紛争解決

報告者：梶田幸雄 (麗澤大学教授)

3) 東南アジアにおける投資規制

報告者：阿部道明 (中央大学教授)

4) アジアにおける国際建設契約紛争の予防と解決

報告者：大本俊彦 (京都大学特命教授)

2. 全報告者との質疑応答 (12:00 ~ 12:30)

西部部会

日 時：2016年5月22日（日） 13:30～17:00
会 場：神戸大学梅田インテリジェントラボラトリー
テーマ：国際商取引法学の課題
プログラム：

【報告1】

「英文の国際的契約条項の日本法の下における解釈：Time is of the essence 条項」
中村秀雄（神戸学院大学教授）

【報告2】

「船荷証券所持の法的意義：イギリス法の素描」
増田史子（岡山大学教授）

【報告3】

「国際商事仲裁におけるウィーン売買条約の適用」
高杉 直（同志社大学教授）

東 部 部 会

日 時：2016年 7月18日（土） 13:00～17:30

会 場：「会議するなら：八重洲貸会議室」田中八重洲ビル 2 A 会議室

プログラム：

【個別報告】

「イギリス法におけるシンジケート・ローン～アレンジャー責任を中心に～」

報告者：鬼頭俊泰（日本大学准教授）

コメンテータ：藤川信夫（日本大学教授）

【ミニシンポジウム】

「国際取引と国際課税」

～ BEPS（税源侵食と利益移転）プロジェクト最終報告書を巡る議論～

(1) 国際税務における租税回避防止規定の進展」

矢内一好（中央大学教授）

(2) BEPSの日本企業に与える影響（行動計画 3、4、6、7 を中心に）」

高嶋健一（KPMG税理士法人パートナー）

(3) 最終報告書を踏まえたわが国の官民の対応のあり方」

小畑良晴（日本経済団体連合会経済基盤本部長）

(4) 3 氏討議「問題の所在と今後の展望（各国政府と国際企業）」

座長：齋藤憲道（同志社大学スーパーバイザー）

AIBT主催第10回模擬仲裁日本大会

日 時：2017年3月4日（土）8：30～20：00

会 場：同志社大学・今出川校地

共 催：日本商事仲裁協会、日本仲裁人協会・関西支部

第10回模擬仲裁日本大会が、国際商取引学会の主催により上記の日程で開催された。今回は、京都大学 [日本語の部のみ]、京都産業大学、神戸大学、同志社大学、名古屋大学 [英語の部のみ]、一橋大学、北海道大学、早稲田大学（久保田ゼミ）、早稲田大学（浜辺ゼミ）の計9チーム、学生・仲裁人・傍聴者を含む計167名が参加した。

【プログラム】

- 9：00～9：15 開会式
- 9：30～11：15 第1試合
- 11：30～13：15 第2試合
- 13：30～15：15 第3試合
- 15：30～17：15 第4試合
- 17：30～17：45 閉会式とJAMAの紹介
- 18：00～20：00 懇親会および表彰式

ルールは、国際大会である「Willem C. Vis International Commercial Arbitration Moot」（Vis Moot）に準じて行われた。ただし、日本大会においては、「英語の部」だけでなく、「日本語の部」も設置された。

試合の結果は、下記のとおりであった。

[英語の部]

- 1位：同志社大学
- 2位：名古屋大学
- 3位：神戸大学

[日本語の部]

- 1位：神戸大学
- 2位：早稲田大学（久保田ゼミ）
- 3位：同志社大学

[最優秀弁論者（英語の部）]

萬木樂（同志社大学）

[最優秀弁論者（日本語の部）]

丸山幹久（早稲田大学久保田ゼミ）

【プレムートコンフェレンス 2017】

第10回模擬仲裁日本大会の前日、下記のとおり「プレムートコンフェレンス 2017」が開催された。

日 時：2017年3月3日（金）13：30～17：30

会 場：同志社大学・今出川校地

プログラム：

「国際仲裁実務の最前線」

13：30～14：15 パリにおけるICC仲裁と若手法律家の仕事

Rory Wheeler (Orrick Paris Office)

14：30～15：15 北京におけるCIETAC仲裁の実務について

Jie Wang (Director of International Case Department,
CIETAC Beijing)

15：30～16：15 ICSIDにおける仲裁の実務

James Claxton (Prof. Former Legal Counsel of ICSID,
Kobe University)

<休憩>

16：30～17：15 Vis Mootに見る仲裁実務の最近論点について

多田 慎（弁護士・大江橋法律事務所）

17：15～17：30 質疑応答

（主催：神戸大学法学研究科ASEAN Plus Exchange Center & Go Global Japan Project; 共催：同志社大学Recital, 国際商取引学会）